


た
か
い
し
10
広
報

天女の住まう街 

たかいし

10

平成 26 年

2014 OCT.

2 ▶ 4 11月5日 Wed. 水 実施!

特集 津波&直下型地震避難訓練 ほか

5 新しいコースが誕生!

PickUp! 毎日が“元気”健幸ウォーキング

6 ▶ 7

地域包括ケアシンポジウムを終えて

8 ▶ 13

市役所からのお知らせ

14 ▶ 19

人権のページ/各種相談/保健だより/子育て

20 ▶ 25

募集とあんない

26 ▶ 27

アプラホール/図書館

28

Photo Topics



今月の表紙

市内各幼稚園で行われた敬老の集い。園児たちは、来園したおじいちゃんやおばあちゃんと「とんぼのめがね」を歌いながら手遊びで交流しました。最後に、自分の写真を手作りのフレームに入れてプレゼントしました。(北幼稚園)

地域包括ケアシンポジウムを終えて

「終生住み慣れた地域で暮らす」

医療と介護の連携、介護予防・生活支援の体制づくり

8月31日(日)、アプラホールで地域包括ケアシンポジウムを開催しました。基調講演に引き続き、パネルディスカッションを行い、これからの本市の地域包括ケアの取り組みについて意見交換が交わされましたのでその概要をお知らせします。

問合せ 高齢介護・障害福祉課 ☎(275)6319

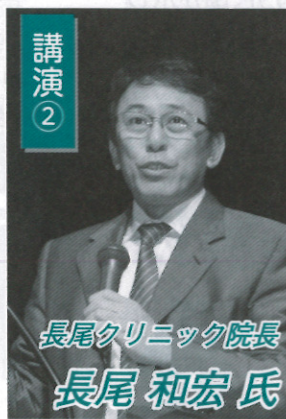


「地域包括ケアシステムとは?」

地域包括ケアシステムとは、介護が必要になっても住み慣れた地域でその人らしい自立した生活を送ることができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいを包括的かつ継続的に提供するものです。それには、各地域の実情に応じて対策をとることが重要となります。また、その地域に住む人たちの中から芽生えるつながりが必要であり、「互いに顔の見える関係」がなければなりません。

利用者にとつて、先の見通しが付く一体的に提供されるサービスでなければならぬため、サービスを提供する医療・介護などの職種協働による総合的なチームが必要であり、「互いに顔の見える関係」がなければなりません。

係一を作っていくことが大切です。高齢者が住み慣れた地域で終生安心して生活できるよう、市町村主体の取り組みを国はしっかりと応援していきます。



「在宅療養を使って、高石で長生き!」

認知症では、よく「徘徊」という言葉を耳にします。なぜ徘徊するのか、目的がないわけではありませぬ。目的があっても、時間と場所を間違っているだけで、その背景には不安で仕方ないという心理が働いています。

認知症になると不安で仕方ない状況に置かれるため、いかに安心



医療と介護の連携



高石市医師会では、医療と介護の連携に向けて各事業所と多職種連携のための勉強会を行ってまいりました。

今後高まる訪問医療・訪問看護のニーズに医師会を中心に他の事業所と協力連携して取り組んでい



きたいと考えています。

本市には、保健・医療・福祉のネットワーク機能をもつ「総合ライフケアセンター(ぎやらの郷等)」があり、この中の在宅介護支援センターで、医師会を中心に医療と介護の連携の拠点にしていけると考えています。

「高石だからこそできる地域包括ケアのまちづくり」

医療・介護連携の先進都市である福岡県宗像市では、孫の手を握って在宅で終末期を迎えることができたと聞きました。実際の在宅での「看取り」では、訪問医療・看護だけでなく家族の力や地域の協力が必要です。また、「認知症になっても徘徊できるまちづくり」を実現するには、地域ぐるみで地域包



「市民・事業者みんなで作る地域包括ケアシステム」

括ケアを進めていかなければなりません。社会福祉協議会では、子どもたちが高齢者を見守れるよう福祉教育も実施。コンパクトな高石だからこそ、このような市民全体で助け合う、思いやりのあるまちづくりが可能だと思えます。

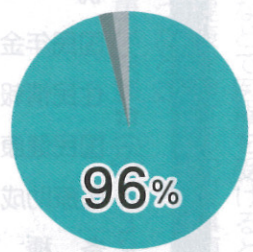
市民の皆さんが、住み慣れたこの高石市で、健康長寿で終生暮らし続けていただくには、行政、医師会だけでなく、自治会、民生委員、児童委員協議会、校区福祉委員会等市民団体、介護事業者や医療機関等すべての皆さんが協力して、顔の見える関係づくりが必要です。

高石でより良い地域包括ケアシステムが出来ることを願っています。

アンケート結果

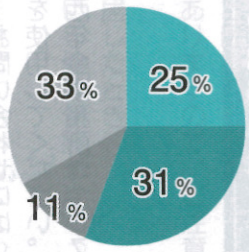
在宅医療・介護が必要だと思えますか

- 思う
- 思わない
- わからない



医療・介護が必要となった場合について

- 家族と暮らしたい
- できれば家族と暮らしたい
- 施設に入所したい
- 今はわからない



▲ 社会福祉協議会主催の福祉事業者協働福祉教育